

# 主要科目の特長

## 看護学科

授業科目名	特長
人体の構造と機能	人体の形態と機能。人体を構成している形態と構造、及び構成部分がどのように機能しているかを系統的に学習する。
代謝栄養学	糖質・脂質・タンパク質・核酸などの人体を構成する物質の性質、機能及びそれらの代謝などを中心に学習する。また、人々が健康な身体をつくり、それを維持するために、また病めるときは健康回復を促すことができる食生活のあり方について、栄養とのかかわりを通して明らかにすることを目的とする。
薬理学	薬理学は薬物療法（医薬品による治療）の実施法やその根拠となる理論についての学問である。薬は疾病により種類やその使い方がそれぞれ異なり、全てを理解して与薬することは困難である。しかし、適正使用が出来てこそ薬として機能するが、一歩間違えると毒薬となり命に関わることになる。ここでは、これらの基本を学ぶ。また、薬物療法に関する一般事項を学び、特に、医療事故について学ぶことで、安全で有効な薬物療法実施のための知識の習得を目ざす。
微生物学	20世紀の医療は感染症を克服することに始まった。しかし21世紀の現在でも未だその道はなかばである。その基礎をなすものが微生物であり、医療人教育には不可欠である。またその進歩は近年特に目覚しく、現在の常識は科学進歩とともに非常識となることもある。したがって授業内容の微細な個々の知識は21世紀の半ばまで医療人として活躍する諸君の知識としては耐え得ないと思うが、ものの見方や考え方は普遍である。この授業の目的は微生物の特性や免疫メカニズムを理解し、それらの知識を疾病の予防と治療に活かすことであるが、さらに大切なことは、感染症から自らの身を守れる医療人を育成することである。個々の微生物に対する知識も大切ではあるが、微生物に対する考え方や今後自分自身でさらに研鑽を積める方策を学ぶ。
疾病の成り立ちと回復の促進 総論	疾病の成り立ちと回復の促進の学習の最初に総論として位置づける科目であり、ここでは病理学の内容を学習する。病理学は基礎医学と臨床医学を結びつける学際領域の学問であり、臨床にかかわる学生たちの医学知識のいしずえとなるものである。おもに、病因による5つの分類である、先天異常、代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍について学ぶ。また、総論で学んだ知識をもとに、器

	官系統別に疾患について学習する。
社会福祉論	現代社会における社会福祉の意識および日本の社会福祉施策の概要を学ぶ。具体的には現代の生活問題と社会福祉の動向、社会保険制度、各種社会福祉サービス、社会福祉援助技術等について学ぶ。
総合保険医療論	激しく変動する現代社会において、人々の価値観やニーズが多様化する中で、医療が抱える諸問題を明確にし、看護が果たす役割を考察する。看護の対象である人々の社会生活と健康・疾病との関連、ライフサイクルに応じた保健医療の現状と課題を保健・医療・福祉と関連づけて学習する。そして、健康管理方法論の一端を習得することをねらいとする。
関係法規	看護師に必要な法令を中心に、保健・予防・医療・薬事・社会福祉・医療保険の制度について学ぶ。
看護学概論	看護の基本概念、本質、ヘルスケアにおける看護の役割、専門性をその発展過程を踏まえて理解する。また、看護がライフプロセスにおける人間の健康生活に視点をおいて、科学的かつニューマンな思考にもとづいていることを学ぶ。
基礎看護援助論 I	看護を取り巻くさまざまな概念に関心をもち、対象の看護援助に必要な技術を身につけ個別的な看護を展開するために必要不可欠な共通援助技術を学ぶ。
基礎看護援助論 II	健康障害により、自力では日常生活に支障をきたしている対象に対して、その必要度に応じた支援を行うための基本的な技術を習得する科目である。「人」の生命過程の構造と機能を理解したうえで、文化的視点も大切にできる姿勢を養っていく。
基礎看護援助論 III	健康障害のある対象の生命過程の状態を知る技術について講義・演習を通して学習する。正確な解剖生理学の知識に基づいた技術から得られるデータは、看護や治療に役立てることができる。ここでは客観的なデータを科学的な視点で捉えるための知識と技術の習得を目的とする。基礎看護技術IVと連動するものである。とくに、ヘルスアセスメントの概念やフィジカルアセスメントの基本的な技術の習得を中心に学んでいく。
基礎看護援助論 IV	健康障害のある対象の診断・治療過程における援助技術および、共通基本技術について講義・演習を通して習得する。健康障害のある対象の生命過程を見つめ、身体内部で営まれている回復過程と、援助技術との関連を考え

	<p>ることができ、援助の意義を理解して、技術の習得をめざしていく。前期で学んだ基礎技術の知識・技術と関連科目である解剖生理学、微生物学、薬理学の知識を活用して援助の根拠を明らかにし、知識と技術を統合させて学ぶ。</p>
基礎看護援助論 V	<p>科学的思考のプロセスを用いて、個々の患者に適した看護援助を提供するための「看護過程」のステップごとにゴードンの枠組みに基づいて、思考のトレーニングを行う。特に、看護過程のなかでも得た情報が何を意味するのかを判断できる「看護アセスメント能力」を養うことに重点をおき、患者のもつ看護上の問題を導きだす素地を養うことに主眼をおく。</p>
看護倫理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理および看護倫理の基礎知識、関連する用語について学ぶ</li> <li>2. 演習を通し実践の場で看護者が直面する倫理的問題の意思決定のステップを理解する。</li> <li>3. 学会に参加し、医療をとりまく倫理的問題と研究発表に触れ、見分を広め、将来にわたり、倫理的姿勢を身につける素地をつくる。</li> </ol>
基礎看護学実習	<p>基礎看護学実習Ⅰ：看護の対象と看護の場の理解を深め、看護職者としての基本的な姿勢・態度を学ぶ。 基礎看護学実習Ⅱ：基礎看護学で学んだ知識と技術を用いて日常生活の援助を行い、その看護のプロセスを通して、看護職者としての基本的な姿勢・態度を認識する。</p>
成人看護概論	<p>ライフサイクルにおける成人期の特徴と健康問題を理解し、成人看護の役割を学習する。</p>
成人看護援助論Ⅰ	<p>慢性期にある対象の理解と看護に必要な基礎的知識・技術・判断力・問題解決能力を養う。</p>
成人看護援助論Ⅱ	<p>手術を受ける対象の理解とその看護実践に必要な基礎的知識・技術・判断力・問題解決能力を養う。</p>
成人看護援助論Ⅲ	<p>クリティカルな状況にある対象の理解とその看護実践に必要な基礎的知識・技術・判断力・問題解決能力を養う。</p>
成人看護援助論Ⅳ	<p>セルフマネジメントを中心とした疾病管理と看護援助を必要とする対象の理解と、看護援助に必要な知識・技術を学ぶ。特に、生活習慣病の疾病看護は、国家試験対策においても重要な看護実践領域であるため、関連する系統はすべて一元理解を目指す。</p>
成人看護援助論Ⅴ	<p>危機的状況を脱し、回復過程をたどる対象に対しての援助に必要な知識・技術を学ぶ。</p>
成人看護援助論Ⅵ	<p>成人期にある対象の発達段階の特徴を踏まえて、健康障害のある成人の看護について、看護の過程を展開できる能力を養う。</p>

老年看護学概論	老年看護学は成人期と異なった加齢に伴う身体・生理学的、心理学的な変化、そして文化・社会的影響などについての独自の知識が求められます。老年看護学概論では、高齢者の健康と生活習慣、各種制度について学習し、高齢社会の今日的課題を看護の立場で理解し、看護の役割を学ぶ。
老年看護援助論Ⅰ	加齢に伴う専門的知識を理解し、実践に活用できる老年看護援助を学ぶ。
老年看護援助論Ⅱ	加齢に伴う健康段階の専門的知識を理解するとともに、高齢者にみられる疾患の特徴とその看護について学ぶ。また、高齢者の特徴を踏まえた実践に活用できる老年看護援助を学び、これからの高齢者ケアについて考えていく。
老年看護援助論Ⅲ	高齢者の看護過程の展開において、自らの高齢者観、看護観を確認しながら、これまで学習した高齢者の身体的、心理的、スピリチュアル、社会的側面の特徴をはじめ、高齢者を取り巻く生活環境や高齢者の医療・保健・福祉政策などを統合させ、事例を通して特に生活に視点をおいた実践に活用できる看護過程を学ぶ。
小児看護学概論	小児看護の理念をふまえ、小児看護の目標・役割と課題について学ぶ。また、絶えず成長・発達している小児の特徴とそれらに影響をおよぼす諸因子について学び、成長・発達の評価と各発達段階における看護の理解をめざす。
小児看護援助論Ⅰ	小児と家族を取り巻く社会状況をふまえ、母子保健政策などについて学ぶ。小児にとって重要となる家族について理解し、小児・家族の看護に必要な知識・技術について学ぶ。教授方法は主に講義形式とするが、後半に技術演習を実施する。
小児看護学援助論Ⅱ	小児期にある看護の対象の成長・発達をふまえて健康障害の特徴・疾病の経過を理解し、健康障害を持つ小児・家族の看護に必要な知識・技術について学ぶ。また、小児期に特徴的な症状と看護について学ぶ。教授方法は主に講義形式となるが、一部グループワークを実施する。
小児看護学援助論Ⅲ	小児期に特徴的な健康障害の看護について学ぶ。また近年、社会問題となっている小児虐待についても取り上げる。そして、小児看護過程の展開方法を事例を通して学び、小児看護に必要な基本的知識と技術を養う。前半は講義形式とするが、後半はグループワークを実施し、その成果を発表してもらう。

母性看護学概論	母性の概念理解を基礎に、女性の一生を通じた母性の健康保持・増進と次世代の健全育成を支援するための看護の理念、方法論を習得する。母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状及び女性のライフステージ各期における看護、リプロダクティブヘルスケアとして、家族計画、健康問題を学習する。
母性看護援助論 I	周産期医療における正常・異常の判断に必要な基礎的知識を習得し、異常経過にある対象者への看護について、身体的特性と心理・社会的特性をふまえ、アセスメントできる能力を養い、看護の提供ができることをねらいとする。
母性看護援助論 II	妊娠・分娩・産褥期にある婦人を対象に身体的変化、生理的特徴、心理・社会的特徴を理解し、対象のニーズに応じた看護を提供できる基礎を学習する。妊婦の健康診査や保健指導、産婦の分娩期の看護、産褥復古を助成する援助法を学習する。
母性看護援助論 III	出生直後からの早期新生児の生理的特徴を理解し、看護ができる学習と、育児技術についての基本的な技法について学習する。母性看護を展開するために、事例をもとに看護過程の展開法について学習する。
精神看護学概論	精神医療や精神看護の歴史的変遷を通して、現在の精神看護師の役割を学ぶ。 精神の健康と現代社会における諸問題や看護師の役割および関連資源について学ぶ。
精神看護援助論 I	精神疾患及び症状を理解し、精神科看護の基礎を学ぶ。 精神の健康と現代社会における諸問題について学ぶ。 精神保健における看護師の役割および関連資源について学ぶ。
精神看護援助論 II	精神看護を実践するために必要な知識・技術を学ぶ。 事例をもとにオレム・アンダーウッド理論による看護展開を学ぶ。
精神保健論	①精神保険福祉法を理解する。 ②精神障害者の人権問題を考える。 ③現代社会の諸問題を看護職者として現状を理解する。
成人看護学実習	成人各期の健康のあらゆる段階にある対象の健康上の問題を理解し、健康の維持・増進、健康障害からの回復と社会復帰に向けて必要な看護の実践能力を養う。
老年看護学実習	老年期にある対象を総合的に理解して老年看護実践の能力を養うことをねらいとしている。老人保健施設およびグループホームにおいては、老年者の生活支援の方法を看護の立場で理解する。また、医療施設においては、老年者および家族の特徴と健康上の問題を総合的に理解して、対象に応じた看護の実際を学ぶ。
小児看護学実習	小児期における対象者とその家族を理解し、成長発達・

	健康段階や健康レベルに応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。幼稚園実習と病棟での臨地実習と学内での実習を実施する。
母性看護学実習	妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族を理解し、対象に応じた基礎的看護を実践できる能力を養う。
精神看護学実習	1) 精神障害をもつ対象の精神的・身体的・社会的諸問題を総合的に理解し、看護の役割と方法を習得する。 2) 精神看護における基礎的な知識・技術・態度を学び、適切な看護を実践できる知識と技術を習得する。
在宅看護学概論	地域で生活しながら療養する人々や障害を持ちながら生活する人々とその家族に対する在宅看護活動を実践する基礎を学ぶ。また、在宅看護が行われている社会背景を理解し、在宅看護を支えるサポートシステムについて学ぶ。
在宅看護援助論Ⅰ	在宅看護の実践に必要な、看護過程の展開ができる基礎知識を学ぶ。事例を基に在宅の看護過程を展開する。
在宅看護援助論Ⅱ	在宅における対象別の看護の実際を基本的欲求充足援助の視点で学ぶ。在宅で行われている看護技術を学ぶ。また、在宅で行われている医療依存度の高い療養者のケアを学ぶ。
看護管理	看護の対象者を取り巻く人的資源、物的資源、材的資源の有効活用の仕組みと技術について学ぶ。関連づけて看護組織論、看護管理基本について学習する。
国際協力と災害看護	誰もが日常的に「国際」を意識しうようになった現在、国際社会に対応できる看護職の役割が今後もますます期待されている。本講義では国際看護(災害看護を含む)に必要な基礎的知識を具体的に学び、学習者それぞれがイメージする国際看護の活動や展望を元に、国内外で広く国際看護を考えたり、国際看護を実践できる看護職者をめざす。
医療と安全	医療事故防止の理解を深め、安全な看護を実践するための基本的知識・技術・判断能力・倫理的能力を養う
統合看護援助論	既習の知識の蓄積により、対象に応じて必要な知識の想起ができ、対象の状況、状態が判断でき、対象の状態に応じた看護の方法が選択・実施できることを狙いとしている。事例を設定し、患者の状況を判断し、知識と技術を統合して援助を実施・評価する。
在宅看護学実習	地域で療養する人々とその家族を理解し、在宅における看護機能と役割について学ぶ。

看護の統合と実践実習	病棟管理の実際を学び、チームの一員として看護を実施し、看護専門職としての役割を理解する。1. 複数の患者を受け持ち、ケアの優先度を判断し看護が実践できる。2. 診療の補助技術を対象の安全性や業務の効率性を考慮しながら見学および実施できる。3. 看護部の役割、看護師長、チーム・リーダー、チーム・メンバーの役割を学ぶ。4. 他部門との協働の見学をとおして医療チームの中の看護部の役割の実際を学ぶ。5. 統合実習をとおして、チームの一員としての看護師の役割と責任を明確にすることができる。
------------	--